

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】 第 3 部門第 3 区分
【発行日】 平成 17 年 12 月 8 日 (2005.12.8)

【公表番号】 特表 2002-505705 (P2002-505705A)

【公表日】 平成 14 年 2 月 19 日 (2002.2.19)

【出願番号】 特願 平 11-504409

【国際特許分類第 7 版】

C 1 0 M 173/02

C 1 0 M 105/62

// C 1 0 N 30:00

C 1 0 N 30:16

C 1 0 N 40:00

【F I】

C 1 0 M 173/02

C 1 0 M 105/62

C 1 0 N 30:00 Z

C 1 0 N 30:16

C 1 0 N 40:00 Z

【手続補正書】

【提出日】 平成 17 年 4 月 20 日 (2005.4.20)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 補正の内容のとおり

【補正方法】 変更

【補正の内容】

手 続 補 正 書

平成17年4月20日

特許庁長官 殿



1 事件の表示

平成11年特許願第504409号

2 補正をする者

住所 アメリカ合衆国、55102 ミネソタ州、
セント ポール、エコラボ センター（番地なし）
名称 エコラボ インク

3 代理人

識別番号 ~~100095555~~

住所 大阪府大阪市北区天満橋一丁目8番30号

OAPタワー 26階

9555

氏名 弁理士 池内 寛幸

電話番号 06-6135-6051

連絡先 担当は佐藤公博



4 補正対象書類名

明細書

5 補正対象項目名

特許請求の範囲

6 補正の内容

別紙のとおり

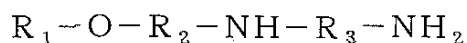
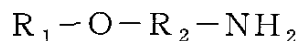


別 紙

特 許 請 求 の 範 囲

1. 潤滑剤濃縮物であって、

a. それぞれのアミン化合物が、次式



ここで、 R_1 は直鎖の飽和または不飽和 $C_6 \sim C_{18}$ アルキル基、 R_2 は直鎖または分岐 $C_1 \sim C_8$ アルキレン基、および R_3 は直鎖 $C_1 \sim C_8$ アルキレン基で表わされるエーテルアミン化合物またはその混合物からなる群から選ばれた有効な潤滑量の1つまたはそれ以上のエーテルアミン化合物と、

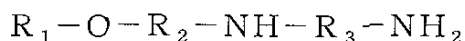
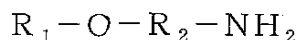
b. 水で希釈されたときに前記エーテルアミン化合物を可溶化するのに有効な量の界面活性剤とを含み、

前記潤滑剤濃縮物の組成物が約10以上のpHを有する潤滑剤濃縮物。

2. 潤滑剤用溶液であって、

主要部分の水と、

それぞれのアミン化合物が、次式



ここで、 R_1 は直鎖の飽和または不飽和 $C_6 \sim C_{18}$ アルキル基、 R_2 は直鎖 $C_1 \sim C_8$ アルキレン基、および R_3 は直鎖または分岐 $C_1 \sim C_8$ アルキレン基で表わされるエーテルアミン化合物またはその混合物からなる群から選ばれた約10ppmから10,000ppmの1つまたはそれ以上のエーテルアミン化合物と、

前記アミン化合物を可溶化するのに有効な量の界面活性剤とを含み、

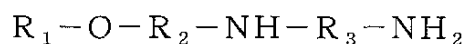
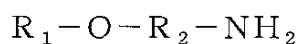
約9より高いpHを有する潤滑剤溶液。

3. 1つより多くのエーテルアミン化合物が前記潤滑剤濃縮物中に存在し、前記

エーテルアミン化合物の少なくとも1つがジアミン化合物で、 R_1 が直鎖 $C_{10} \sim C_{12}$ アルキル基、直鎖 $C_{14} \sim C_{16}$ アルキル基、およびその混合物からなる群から選択され、 R_2 が $C_2 \sim C_6$ アルキレン基、ならびに R_3 が $C_2 \sim C_6$ アルキレン基である、請求項1または2に記載の組成物。

4. コンベヤーシステムを潤滑する方法であって、

(a) 潤滑剤濃縮物を水で希釈し、有効な潤滑量の1つまたはそれ以上のエーテルアミン化合物を含む前記請求項のいずれかに記載の水性潤滑剤を形成する工程であって、前記潤滑剤濃縮物中の前記アミン化合物のそれぞれが



およびその混合物からなる群から選択される式で表わされ、

R_1 が直鎖の飽和または不飽和 $C_6 \sim C_{18}$ アルキル基、 R_2 が直鎖または分岐 $C_1 \sim C_8$ アルキレン基、および R_3 が直鎖 $C_1 \sim C_8$ アルキレン基であり、前記潤滑剤濃縮物が希釈および使用されるときに前記潤滑剤濃縮物中にアミンを可溶化するのに有効な量の界面活性剤をさらに含む、工程と、

(b) 前記潤滑剤用溶液組成物を目的とする使用表面に塗布する工程と、
を包含する方法。